

令和4年生駒市教育委員会第9回定例会会議録

1 日 時 令和4年9月26日(月) 午前9時30分～午前12時13分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告第11号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和4年生駒市議会第5回(9月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第12号 令和3年度決算報告について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	教育こども部次長	坂 谷 操
生涯学習部長	八 重 史 子	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	幼保こども園課長	松 田 悟
幼保こども園課指導主事	喜 多 美 枝 子	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子
こども総務課長	武 元 一 真	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
学校給食センター所長	古 林 像 一	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育政策室長	日 高 興 人	幼保こども園課課長補佐	福 山 清 美
こどもサポートセンター所長	若 狹 美 登 里	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
教育政策室主幹	三 室 哲 哉	教育政策室係長	松 田 美 奈 子
教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 教育関係出席者

生駒北小中学校長 中 井 一 郎

7 傍聴者 0名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 議席の指定について

○日程第2 教育長職務代理者の指名について

飯島委員：3期目としてこの仕事に引き続き携わることができるということで、改めて気持ちを引き締めたい。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われて新しい事業等をはじめることが難しかった。これからは新型コロナウイルス感染症を過度に怯えず、共に生きる形で学校教育を進めていきたい。今後ともこれまでの経験を活かして務めたいと思う。

○日程第3 前回会議録の承認

○日程第4 教育長報告

- ・生駒市英語教育カリキュラムの改訂について、前田教育指導課長から説明
<参照：資料1-1、1-2>
(質疑)

レィルズ委員：22ページのアクティビティについて、対象学年を入れると先生たちが取り入れやすいように思う。前ページからの続きであれば1、2年生への取組かと思うが、難易度的には3、4年生以降にも思う。対象学年はあるのか。

前田課長：対象学年については特に定めていない。導入としてなら5、6年生にも使えらると思っている。学年問わず使っていただきたいと考えている。

レィルズ委員：今後はこのアクティビティのサンプル動画を共有してはどうか。より分かりやすくなるかと思う。次に、26ページの7行目「今後、このCAN-DOリストを指導者と児童生徒が共有し」とあるが、CAN-DOリストは児童・生徒へ配布しているのか。

前田課長：配布していない。

レィルズ委員：リストに載っている内容は先生を通して児童・生徒に共有されているという認識でよろしいか。

前田課長：その通りである。

レィルズ委員：その他資料1の夏期研修会の感想を見ると、CAN-DOリストを上手く活用できていないまたは、把握出来ていなかった先生がいるようだ。作成だけでなく現場への落とし込みが大事である。今回の改訂版を現場の先生方が活用しやすいような働きかけを考えていただきたい。次に、現在の生駒市の英語教育について、事前に事務局へ質問していたことがあったので回答を共有したい。まず1点目、CAN-DOリストでクリアしたレベルが、一般的な

英語のレベルに置き換えるとどの程度なのかを知ることは、高校受験等を踏まえると大切であると思う。学校単位で英検等の受験を行う検討はしているかという問いに対し、奈良県で行われていると回答があったが、詳細をご説明いただきたい。

前田 課長：英検等については、奈良県からの案内を生徒へ紹介しており、任意で受けていただいている。学校から全員で受けさせることはしていない。

イノダ 委員：今年度9月から英語力向上アセスメントを順次実施すると回答されているが、これは英検等ではなく別の能力検定方法か。

前田 課長：本年度から、奈良県が委託した検定を全学校で受検していくことになっている。これは奈良県から直接各学校へ連絡を取って行っている検定で、早い学校では8月下旬から受検が始まっている。

イノダ 委員：奈良県独自の検定であり、奈良県内での英語能力を測れるものと認識しておく。英語教育については課題が尽きないかと思う。ICTを活用した英語教育等も進むと良い。今後アクションプラン等で具体的に考えていきたい。

原井教育長：今回の意見については、小・中学校の英語担当で研修会を実施しているので、その時に共有したい。今後具体的に進めていきたい。

古島 委員：その他資料1の夏期研修会の感想にて、CAN-DOリストを学校教育に具体的に取り入れることが出来ていなかったという意見がある。私の勤務校でも試験的にルービックの作成に取り組んでいることである。生徒たちに共有して、学校として卒業時にはこのような能力を持った生徒になってほしいということを示すためにアンケートを取る等している。先ほど、子どもたちにはCAN-DOリストを共有していないとのことであったが、知っている方が先の目標が見えて子どもたちも勉強しやすいのではないか。次に27ページの実践に関する部分について、実際の授業を見てみたい。見学が難しければ、動画撮影をしたものでも良い。

原井教育長：中学校における少人数指導については、学校訪問の際に見学の機会があった。そのような折に見学いただけたらと思う。

飯島 委員：26ページ②1行目に「小学校において、学級担任がALTと共に進める外国語活動を体験している」とある。ここでいう小学校には、高学年も含むかと思うが、27ページ実践①の「小学校高学年における学級担任と中学校英語教員とのT.Tによる授業」とどのような違いがあるのか。

前田 課長：ALTが入る授業は、T1が小学校教員である。中学校英語教員が入る授業については、T1が中学校英語教員で、補助として小学校の先生に入ってもらったものである。

飯島 委員：実践①の説明欄における、指導形態や授業の様子ではT1とT2が逆になっていると思う。ご説明お願いしたい。

前田 課長：実践①の取組について、先ほど申し上げたのはこれから目指すところである。現状はまだ取り組んだことのない中学校が多い。既に実践したことがある授業においては、T1が小学校教員で行っている。まずは補助として入りながら子どもたちの様子を見ていただき、T1の技術を磨いてほしい。

イノベ委員：27ページ上段「○サイボウズの共有のフォルダーの活用」とあるが、校務支援システムではないか。修正願いたい。

前田 課長：訂正します。

原井教育長：先ほどの飯島委員からの意見について、生駒北小中学校ではすでに乗り入れ授業が行われており、T1が中学校教員である。この形が全校に広がっていけばと考えている。

坪井委員：先日、小学校6年生の子どもの英語の授業参観があったので、感想を共有したい。ALTのいない授業であったが、先生は塾の講師をしていたようでICTの活用も上手くしていた。グループで話し合いをしてその結果をモニターに映していくゲームをしていた。生駒市英語教育カリキュラムには沿っていなかったが、とても良い授業に感じた。先生が前に立って指導するだけでなく、子どもたち同士が教え合っていたことに感銘を受けた。このような子どもたちがアクティブに学べる授業環境を作るという文言があればいいと感じた。

原井教育長：カリキュラムというのは、1つの指針である。今の話は授業形態に当たり、協働的な学びの実践である。いただいた意見は研修等で共有したい。

・とことこ相談の実施について、坂谷教育こども次長から説明

<参照：資料2>

(質疑)

伊藤委員：非常に良い取組だと感じる。公立の12園で行われるということは、最北はあすか野幼稚園になるかと思う。それ以北の方もいけるようなものも検討していただきたい。周辺の私立園に在園している園児の保護者はとことこ相談会に行けるのか。

坂谷次長：まずは在園している保護者を対象に考えている。この取組は、現在支援に繋がっていない園児の保護者に向けての取組である。先生方が普段の保育の中で、支援に繋がった方がよいのではないかとと思う園児がいても、保護者にいきなり伝えるのは難しいのが現状である。そのような場面で、中間的な支援として園に相談員に来ていただくものである。取組を続ける中で保護者の反応を見ながら、ニーズがあれば私立園にも広げていきたいと考えている。

飯島委員：とても良い取組であるので、今後学校関係全体にも取り入れてほしい。1点気になる点がある。とことこ相談調査票というのは、とことこ相談とい

う名前に反して固いように感じる。書式等によっても相談のしやすさは変わるかと思うので、調査票について書きやすい様式を取り入れてほしい。

坪井委員：この相談会は、気になることがある保護者が園に申込みをするものか、先生が保護者に紹介するものか。

坂谷次長：両方のパターンを想定している。園にチラシを掲示するので、それを見て保護者が相談する場合もあれば、保護者が先生へ子どものことを相談する中で、園から紹介することも想定している。

吉尾委員：現場にいた立場からすると、非常にありがたい取組である。子どもの支援のことは大変デリケートな問題である。園には保護者が相談したいと思える環境作りに努めてほしい。相談した後の対応はどのように行うのか。

坂谷次長：担任から日々の様子を相談員に伝え、実際に活動の様子を見ていただく。それを踏まえて保護者の方と話しをしていただくことを現在想定している。

吉尾委員：保護者の不安を取り除くということが一番の目的か。

坂谷次長：支援に繋がっていない方をこれからの支援に繋げるということを第一に考えている。

伊藤委員：現在の私立園での対応について知りたい。

坂谷次長：市から委託をしているので、連携は常に深く取っている。万が一入園された園児について、気になる点があれば園から指導主事に連絡が入って相談を受けている。保護者からの相談であれば、保育コンシェルジュが対応している。

坪井委員：チラシについて、園への掲示だけでなく保護者への配布も行うのか。

坂谷次長：まだ具体的にそこまでの話し合いは進んでいない。反応を見ながら進めていきたい。

坪井委員：チラシについて、UDフォントに変えていただきたい。

原井教育長：配布資料等は全てUDフォントにするよう各園に伝えている。

坪井委員：この資料がたまたま違うフォントなだけか。

原井教育長：その通りである。フォントについても検討していく。基本的にはUDフォントで統一している。

○日程第5 報告第11号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第5回（9月）定例会提出議案の意見について）

- ・臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第5回（9月）定例会提出議案の意見について）、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 1～8>

イルズ委員：生駒南第二小学校の適応指導教室について、開設から約2ヶ月経っているかと思うが、現状を教えてほしい。

前田課長：当初は10名を想定していたが、8月末の時点で30名ほど在籍している。
集団の活動では、多い時に15名程度来ている。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 報告第12号 令和3年度決算報告について

- ・令和3年度決算報告について、奥田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明
<参照：議案書p9>
(質疑)なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第7 その他

- ・教職員の夏期研修の実施について、前田教育指導課長から説明
<参照：その他資料1>
(質疑)

レックス委員：意見交換や研修の機会について、多い方が良くと思うが、今の実態はどうか。年に1回であるか。

前田課長：教員の負担軽減ということもあり、できる限り少なくしたい考えている。指導主事とALTのコーディネーターと共に授業を見学した後、意見交換をする場を設けている取組等もあるが、全員が集まるのはこの夏期研修のみである。

レックス委員：必要に応じて、研修や交流の機会を設けてほしい。

飯島委員：研修を行うのみに留まらず、参加した方からの意見をまとめるのは必要なことである。今後も続けていただきたい。意見の中で具体的な示唆を得たことはあるか。

前田課長：たくさん意見をいただいている。全ては反映できないが、事務局の思いと合うものであれば取り入れたいと考えている。

古島委員：8月2日の尾崎さんの授業の反応が良かったように記載があるが、具体的な授業の要望はあったか。

前田課長：夏休みに実施したため、すぐに要望は出ていないが、2学期以降も要望は聞いている。

古島委員：その要望に対して、事務局のフォローは間に合っているか。

日高室長：研修をする前からたくさんの方の要望をいただいている。今回の研修で新たに興味を持っていただいた先生もいると思う。現場に行ったときに新たな要望が出ることも想定している。スタッフについては、教育政策室で対応しているが、ギリギリで運営している現状である。尾崎さんが現場に行く際

はできる限りフォローしているが、1人で行っていただいている時もあるのが現状である。

古島委員：私には滋賀県の中学校で出前授業を行った経験がある。今年度も、中止になった職業体験学習の代わりになるような授業の実施を予定している。生駒市でも活動できることがあれば協力したい。

伊藤委員：「小学校外国語授業づくり研修」について、他の研修に比較し参加者が少ないが、理由はあるのか。もし各校1、2名程度の参加となっているのであれば、研修の成果が学校で還元されるシステムがあるのか。また、参加していない方のニーズはどのように吸い上げているのか。何か取り組んでいることがあれば知りたい。

前田課長：「小学校外国語授業づくり研修」の参加人数については各小学校英語担当1名以上としているが、会場が小さいので制限している。今年度は希望があったので中学校の先生も1名参加している。研修に参加していない先生へは動画の配信等も検討しているが、著作権の問題があるので講師の方と相談しながら進めていきたいと考えている。

伊藤委員：参加していない方のニーズの把握についてはどうか。

前田課長：主に研修後の感想を基に来年度の計画を考えている。また、特別支援員や生徒指導の部会、英語担当の会議の際や、キャリア教育プランナーの尾崎が学校へ訪問した際にも先生方から話を聞くようにしている。

・生駒市立南小・中学校の今後のあり方について、日高教育政策室長から説明
(質疑)

原井教育長：生駒南小・中学校の今後についての話し合いを進めていきたい。まずは先日の王寺北義務教育学校の視察について、感想や意見があればお聞きしたい。

吉尾委員：低学年の教室が幼稚園仕様になっていたのが良かったと思う。今後万が一5歳児が義務教育化した際にも有効に使えるし、1・2年生が幼稚園の雰囲気を残しながら自然に小学校の生活を理解できると思う。また、保健室が大きい等、避難所としての想定もしっかりされているように感じた。気になった点としては、6年生のリーダーシップをどのように育ていくのかという点や、学童が2階だった点である。

原井教育長：「今後の生駒市立小・中学校のあり方について」に、市として小中一貫校を進めていくという方向性の記載がある。現在本市では生駒北小中学校が最初で唯一の小中一貫校に取り組んでいただいている。今回は生駒北小中学校の中井校長に現在の取組についてお話ししていただく。

中井校長：本校は小中一貫校となって7年目、施設一体型となって6年目となる。まずは小中一貫校の成果について説明したい。まず1点目は、異学年交流についてである。異学年交流を行うことで、中学生は小学生の模範になるよ

うに、小学生にとっては中学生を憧れとして、良い相乗効果を生んでいると思う。例えば本校では小学生と中学生が同じフロアで掃除をしている。お互いが意識しながら掃除を行えているように感じる。また、行事についてもできる限り合同で行うように取り組んでいる。今年度については、運動会や入学式を合同で行っており、卒業式についても合同で行う予定をしている。運動会においては、小中合同運動会委員会というものを立ち上げ、小中学生が一緒になって運営の手伝いをしている。次に2点目は中1ギャップについてであるが、中学校に上がっても同じ校舎であるため不安を解消出来ていると思う。普通教室は学年ごとに階が分かれているが、特別教室については1階から3階までに配置しており、行き来してもらうことでお互いの様子が見えるようにしている。また、今年度の中学1年生の学級担任は、昨年度小学校6年生の理科を乗り入れ授業で担当していた先生である。すでに生徒の顔と名前が一致していることからお互いに安心感があったと思う。次に3点目は小中学校の教員の協働についてである。合同行事が開催されるたびに児童・生徒だけでなく、小中学校の教員も協力し合っている様子を見ることが出来る。職員室も1つであるので、児童・生徒、保護者についての情報を上手く共有できていると感じている。また、本校はいじめが少なく、暴力行為も見受けられない。不登校児童・生徒数も減少している。その辺りも成果が出ているのではないかと考えている。次に4点目、乗り入れ授業についてである。本校では中学校教員が小学校授業へ乗り入れ授業を行っている。これにより、文部科学省が進めている教科担任制をすでに実施できている状態である。最後に5点目、小中一貫校における成果について教職員へアンケートを取ったのでいくつか共有したい。児童・生徒や保護者の目線では、小学校教員か中学校教員か関係なく話しやすい先生へ相談することができる点や、保護者面談における兄弟の日時を合わせることができる点、育友会が1つになったことで負担の軽減ができた点等が良い点として挙げられた。教員目線では、学校行事が合同になることで準備の負担が軽減されるとの意見があった。また、中学校教員からは、小学校の頃からの発達状況が良く分かるので指導に活かしているという意見があった一方で、小学校教員からは中学校の生徒指導の話聞く機会があるので、小学校の段階から中学校卒業後のことまで見通して指導ができると意見があった。続いて小中一貫校における課題について4点ある。まず1点目は授業時間について、小学校45分に対し中学校50分であるので、校時の設定に苦労する。次に2点目は乗り入れ授業について、小学校の先生にとっては働き方改革になっているが、中学校の先生にとっては、中学校の授業に加え小学校の授業の教材研究や授業準備が必要になる。次に3点目、子どもたちの人間関係が固定されてしまう。これについては、学級担任を変えたり、尾崎さんのオンライン授業にて他校と一緒に

授業を受ける等で改善しようと取り組んでいるところである。次に4点目の職員会議について、中学校教員は部活動指導もあるため、小学校教員と時間を合わせるのが難しいことが課題である。現在は中学校の部活動をしなくもしくは短縮する等で解消している。最後に、本校の特色について5つ紹介する。1つ目は、乗り入れ授業である。本校では音楽と体育、書写、図工、家庭科、算数・数学、英語、理科にて実施している。2つ目は総合的な学習の時間において、9年間一貫した学習を行っていることである。3つ目は、中学校2年生と3年生において、少人数教科指導に取り組んでいる点である。元々少人数ではあるが、さらに半分に割って学力向上を目指している。4つ目は、校時についてである。小学生は中休みと昼休みを20分確保するようにしており、さらに5・6年生は中学生に合わせた50分授業を採用している。5つ目は、校舎や設備についてである。普通教室に電子黒板やプロジェクターが設置されており、ICT教育を取り入れやすい。また、バリアフリー化されていることも特色の1つで、車いすの生徒はエレベーターや多目的トイレ等を利用している。また、和室や休日に利用できる多目的室を設置していることから、地域の方も利用できる施設になっている。

ワイルズ 委員：小中一貫校になってから7年経っているので卒業生がいるかと思う。その卒業生たちが進路を考えるにあたって、プラスの効果は感じられたか。

原井教育長：中井校長は生駒北小中学校の校長になって2年目であるので、難しい質問かと思う。

ワイルズ 委員：では、施設面で質問したい。生駒北小中学校は空間にゆとりがある施設かと思う。先生や生徒たちの過ごしやすさとして感じるものがあれば教えていただきたい。

中井校長：本校舎は広く、木の温かみも感じる。また、廊下が非常に広く作品展示が出来たり、廊下で遊んだりゆとりある生活をしているように感じる。

ワイルズ 委員：5年生からの教育のつまずきを問題に感じていたので、義務教育学校の取組は理にかなっていると感じた。1つの校舎でも学年の区切り方はいくつかの方法があると思う。生駒北小中学校は現在6・3で区切っているが、義務教育学校のような区切りに関して感じることはあるか。また、生駒北小中学校では、中学校へ上がる時の切り替えはどのようにしているか。

原井教育長：カリキュラムに関することは、校舎を一体型にするかどうかの方針が決まってからの話し合いにしたい。また、経験していないことを比較するのは難しいと思う。

中井校長：校長になって2年目になるので当初のことは分からないが、フロアや制服が変わることである程度気持ちは切り替わっていると思う。体感としては、中学校に上がったとたん落ち着いた授業風景に切り替わっているように感じる。高学年のつまずきに関しては、乗り入れ授業で解消したい。

原井教育長：吉尾委員から6年生のリーダーシップ育成についての質問があったがどうか。

中井校長：本校では、わくわくタイムや仲良しタイム等の縦割り行事を作るようにしている。これらの活動では6年生が主になって1年生から5年生を引っ張ってくれている。委員会についても5, 6年生だけで行っている。これらの活動によってリーダーシップを育てていると思う。

原井教育長：小中学校合同の行事もあれば、小学校だけの行事も設けているということである。

中川委員：学校の形態が変わるとするのは保護者に不安を与えるかと思う。小学校、中学校それぞれに卒業式があるということは保護者にとっても、子どもたちにとっても大切であると感じる。学校との繋がり1つになるだろう。

伊藤委員：当初は、人数が少ないことからおとなしい学校なのかなと思っていましたが、今は小中どちらの先生も非常にフレンドリーで良い雰囲気を感じる。これは先生方の心にゆとりがあることが要因かと推測する。乗り入れ授業で小学校の先生がスキルアップし、先生たちの自信に繋がっているのであろう。また、王寺北義務教育の4・3・2の形について、合理的であると感じた。思春期になると反抗的になる子どももいる。従来は中学生がその時期であることが多かったが、最近子どもたちの成長が早く、小学5年生頃にまで早まっている傾向があると感じている。しかし9年間一貫までの形だと、5・6年生は中学生を意識することで自分を客観視し、落ち着く効果があるのではないかと思った。次に、先生に1点質問したい。小中一貫校であることで、そうでない学校と比べ中学校の先生に変化はあるか。

中井校長：昨年、今年で人事異動があった。30代の男性教員が多く、小中関係なく仲が良い。その方々が様々な場面で明るく引っ張ってくれていると感じる。

原井教育長：どこの学校でも先生方のチームワークは学校運営に影響を与えていると思う。今回いただいた意見は、教育内容に関わることになるので、まだ先の話し合いになる。今年度中は校舎や校区について決めていきたいと考えているので、そのことを中心に意見を出してほしい。

飯島委員：先生方のことで質問がある。小中一体の校舎であると、小中それぞれの学びを見る機会があるとかと思う。それは施設一体型校舎の意義・価値になると思う。先生方はこれによる教えやすさを感じているか。

中井校長：乗り入れ授業をしている教員については、授業内容まで連携を取れていると思う。しかし、小学校の先生や中学校の先生がそれぞれの授業を見るようなところまではまだいけない。今後検討したい。

飯島委員：先生方の業務量や勤務時間について、小中一体型になることで増減はあるか。

中井校長：中学校については退勤時間が少し早いように感じるが、小学校については遅いように思う。私は中学校教員であるため、他の小学校の状況が分からないが業務量が減っているという印象は持っていない。

坪井委員：小学校の先生から中学校へ乗り入れ授業をしているものはあるか。

中井校長：教科ではないが、部活動の指導をお願いしている。現在は吹奏楽部やバスケットボール部を指導していただいている。

坪井委員：中学校の先生が小学校へプラスの効果を与える側面が多くクローズアップされがちだが、逆に小学校の先生の優しさや子どもとの細やかなふれあいのやり方が中学校の先生へ良い効果を及ぼすことがあると思う。中学生に上がると、クラス担任から教科担任に変わること、生徒が先生へ話しづらくなる傾向にあるかと思う。しかし乗り入れ授業等で児童が多くの先生と触れ合うことや、中学校教員が小学校教員と触れ合って柔らかい空気感を共有することで改善されているのではないかと推測している。そのような効果は感じるか。

中井校長：そのような効果は感じている。乗り入れ授業のおかげで中学校の先生への恐怖心や緊張感はないように思う。児童・生徒にも人懐っこい子どもが多いので、先生にフレンドリーさやゆとりがあるように見える。

坪井委員：6年前に訪問した際は小学校教員と中学校教員に壁があるように感じていたが、数年経ち良い方向に変わっているようで良かった。生駒市では6年前からすでにこのような取り組みが実践され、かつ効果を出していることに安堵と希望を感じる。

神澤委員：不登校や暴力行為が減少したとあったが、事実であれば異年齢集団活動が不登校の減少に繋がれるということになる。具体的な数を教えてほしい。

中井校長：昨年度、中学3年生で不登校生徒が4名いたが現在は中学1年生で1名になった。小学校については学校に行きにくいと感じている子が1人いたが、昨年度よりは減少している。

神澤委員：これが先進事例であれば、異年齢集団活動が不登校の減少に繋がれる仮説が成り立つ。しかしこれは諸刃の剣でもあり、次の集団へ行くときに苦労すると思う。同世代と話しにくい子どもにとっては、良い環境なのだと思う。教室が広くて居心地が良いことも要因の1つではないかと思う。

古島委員：乗り入れ授業を行うことで中学校教員の負担は増えていないのか。

中井校長：元々学級数が少ないため、他の学校と比べ教科担任の授業数が少ない。各教科が授業時間数を増やすために小学校へ乗り入れしているため、全体的な授業数は増えていない。

原井教育長：11月12日に南小中の今後を考える会が行われる。中井校長にもご臨席いただき、先ほどの話を地域の方にも共有してほしい。今後は校舎や校区、今後の進め方について話し合いたいと思う。異議ないか。

(異議なし)

・令和4年10月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明
(質疑)

レィルズ 委員：今年の運動会について、新型コロナウイルス感染症に関する制限はあるか。

山本 課長：昨年度と同じように運営する。来賓は入らずに実施する。

レィルズ 委員：保護者についてはどうか。

山本 課長：昨年度同様人数制限等を設けながら運営する。

○閉会宣告

午前12時13分 閉会